

## 第6学年 国語科指導案

1 単元名 条件に応じて効果的に書こう－日本文化検定作りを通して－

教材名 『鳥獣戯画』を読む

「発見、日本文化のみりよく」

### 2 単元の目標

○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

(知識及び技能 (1) ク)

◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

(思考力・判断力・表現力等B 書くこと (1) ウ)

○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。

(思考力・判断力・表現力等B 書くこと (1) オ)

○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

(思考力・判断力・表現力等C 読むこと (1) エ)

○継続的に読書をしながら、学習の見通しをもった上で粘り強く検定作りに取り組み、自分の思いや考えを伝えようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1) ク	①目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 B (1) ウ ②文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 B (1) オ ③人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 C (1) エ	①継続的に読書をしながら、学習の見通しをもった上で粘り強く検定作りに取り組み、自分の思いや考えを伝えようとしている。

#### 4 単元について

##### (1) 本単元で扱う言語活動と教材について

本単元では、『鳥獣戯画』を読むで「鳥獣戯画」の魅力を伝えるために用いている筆者の工夫を読み取り、その工夫を生かして日本文化の魅力をクイズ形式で解説する「日本文化検定」を書くという言語活動を行う。

主な教材である『鳥獣戯画』を読むは、映画監督である筆者の高畑勲ならではのエンターテインメント性に富んだ表現や言い回しが特徴の説明的文章である。「はっけよい、のこった。」という印象に残る書き出しや、「いったいこれはなんだろう。」などの読み手に考えさせるための問いかけなど、これらの工夫から読み手は文章に引き込まれる。それだけではなく、具体的なイメージをもてるように例を挙げたり、他のものと比較して特徴を明らかにしたりするなど説明の仕方もわかりやすく、「鳥獣戯画」のよさをより深く理解することができる。注目してほしい部分を取り出すという資料の示し方もわかりやすい説明方法の一つである。『鳥獣戯画』を読むの読み取りを通して、わかりやすい説明の仕方や表現の工夫に気付き、併せてその効果も考えられるようにしたい。

その後、『鳥獣戯画』を読むで読み取った工夫を生かして「日本文化検定」を書くという活動を行う。まず、児童は同学年の友達に魅力を伝えたい日本文化（着物、剣道、醤油など）を一つ決め、本から情報収集しながらそのテーマについての検定を書いていく。それぞれが書いた検定を一冊の本「日本文化検定本」にまとめ、同じ六年生の他のクラスの友達に解いてもらう。

「検定」とは物事をクイズ形式で解説するものであり、現在「和食検定」や「日本遺産検定」などの様々な検定が実施されるほど身近な存在になりつつある。解説に重きが置かれるが、クイズが含まれていることから楽しく意欲的に書けると考える。また、検定には書き手は必ず相手を意識した上で、興味を引くような内容や表現を選んで書くことが必要になる。さらに、検定問題を解いてもらうことが読み手からの反応を得ることになり、書くことの有用感を感じられると考える。加えて、検定は解説するという機能をもつため、相手に納得してもらうためのわかりやすい説明が求められる。この検定の様式がもつ特徴こそが、本学級の児童の課題の解決につながると考える。本単元で書く検定は以下のように構成することとし、要素ごとに身に付く力も異なる。(教師見本を参照)

順序	要素	機能	身に付く力 (具体例)
①	リード文	・ 読み手の興味を引きつける	・ 表現を工夫して書く力 (印象に残る書き出し、問いかけなど)
		・ テーマについて簡潔に説明する	・ 要約する力
		・ 問題につながるようなヒントを与える	・ 部分的に詳しく説明する力
②	問題文	・ 読み手に問う	・ 疑問形の文を書く力
③	選択肢	・ 読み手を惑わせる	・ 読み手の知識量や理解度を想定し情報を選ぶ力
④	解説文 (答えを含む)	・ 答えについて解説する	・ わかりやすく説明する力 (他のものと比較する、具体例を挙げるなど) ・ 事実と意見を区別して書く力 (「～そうです。」「～と言われています。」などの文末表現)

## (2) 手立てについて

### ①客観的に文章を見直すための推敲の際の明確な観点の設定

推敲に向けて、自分自身で読み返す場合と他人に読んでもらう場合が挙げられる。どちらも必要であるが、他人に読んでもらい意見や助言を受けると、より客観的に自分の書いた文章を捉え直すことができると考える。しかし、相手が書いた文章のどの部分に着目して読めばよいかという観点が明確に設定されていないと、ただの読み合いに終わってしまう。

そこで、ペアの友達が書いた文章の中から「テーマの魅力について書かれている部分」と「工夫が取り入れられている部分」を探し当てる活動を行う。具体的には、まず自分で文章を見返し、誤字脱字等の確認に加え、テーマの一番の魅力を述べている部分を青線で囲み、説明の仕方や表現において工夫を取り入れている部分に青で下線を引く。次に、その二点を伝えずに、友達に文章を読んでもらい、読み取った魅力と工夫を本人と同様に印を付ける。その後、印を付けた文章を互いに見せ合い、本人と友達で印を付けた部分が一致しているかを確認する。

この活動により、自分が文章を通して伝えたいこととそのための工夫を再認識できる。さらに、友達はその二点を知らない状態で読むため、実際に読み手に伝わるかが客観的にわかる。自分の意図と相手の読み取りが一致した場合は、自分の意図が伝わったと自信をもつことができる。一方、一致しなかった場合は、読み手には伝わりにくいということがわかるため、改善の必要性が出てくる。その際は、ペアの友達に相談し、意見や助言をもらいながら文章を加除修正していく。読み手は、相手の伝えたいことと工夫を見付けるという明確な観点到に沿って読むことができるため、書き手と読み手の両者にとって有意義な推敲になると考える。

### ②本に触れやすい環境づくりと十分な本の確保のための地域の公共図書館の活用

本単元では、日本文化について児童がそれぞれ書きたいテーマを選び、主に本から情報を集めていく。その際、学校図書館のみでは各テーマに合った本を一人一冊用意することは難しい。そのため、千葉市中央図書館の団体貸し出しというシステムを利用して、十分な量の本を確保する。借りた本は、教室の一角にコーナーとしてまとめて置き、児童がいつでも手に取れるようにする。

### ③文章の工夫に気付き、効果的に活用するための書き換え文との比べ読み

『鳥獣戯画』を読むには、「鳥獣戯画」の魅力伝えるための説明の仕方や表現方法の工夫が多く見られる。しかし、教科書本文のみだと、どの部分に工夫がされているか、その工夫にどのような効果があるのかに気付きにくいことが予想される。そこで、本文の工夫を取り除いた教師による書き換え文を用意し、教科書本文と比べて読む活動を取り入れる。比べながら教科書本文と書き換え文での違いに線を引き、どのような工夫かを考える。なお、書き換え文は比較しやすくするために、教科書中の記述と対応するよう上下に並べる。(第3時間目で使用したワークシート)

さらに、「なぜ筆者はわざわざこのような表現をしたのか」や「このような表現をするとどのようなよいことがあるのか」などと児童に問い、見付けた表現の工夫の効果を考えられるようにする。その際には、活用場面も思い浮かべることで、検定で取り入れる具体的なイメージをもてるようにする。このように見付けた表現の工夫とその効果を、それぞれ対応するようにまとめて教室内に掲示し、検定作りの際に見返して活用できるようにする。

分類	工夫	教科書中の記述	効果
説明の 仕方	①具体例を挙げる	「漫画なら～紙芝居でも～同じことができる」	理解・納得できる
	②他のものと比べる	「世界を見渡しても～」	特徴が分かる
	③他のものに例える	「まるで人間みたいに」	イメージが湧く
	④写真を入れる	(二枚の絵を切り離して載せている)	目で見て分かる
	⑤言葉を引用する	※教科書中にはない工夫	説得力が増す
表現の 仕方	①書き出し	「はっけよい、のこった」	興味を引く
	②問いかけ	「なぜ～のだろうか」	考えさせられる
	③語りかけ	「～だろう」「～だね」	共感できる
	④体言止め	「～返し技。」「～気品。」	強調される
	⑤オノマトペ	「ひょいと」「ぱっと」	様子が想像しやすい
	⑥発言・会話	「おいおい、それはないよ」	その場にいるように感じる
	⑦ — (ダッシュ)	「ひるんだところを蛙が一。」	その後が気になる

#### ④学習の見通しをもたせ、より正確な評価をするための教師見本の活用

児童にとって初めての「検定」の作成にあたり、検定とはどのようなものなのかを示すための見本は必要不可欠である。教師見本を活用することは、以下の効果があると考えられる。

##### 【児童にとって】

- ・学習のゴールが見え、どのようなことができるようになればよいのか見通しが立つ。(学習前)
- ・書くことの各段階で活動のヒントになる。(学習中)

##### 【教師にとって】

- ・その言語活動を行うにあたって必要な児童の力や学習がわかる。(学習前)  
→児童に必要な手立てや支援が明確になる。
- ・教師見本が評価規準となる。(学習後)  
→評価基準が明確になり、より正確な評価ができる。

このように、教師見本の作成は児童と教師それぞれに、また、学習の前後や最中などの学習の各段階で絶えず役割を果たし、その働きはそれぞれに異なる。さらに、児童と教師の両者が同じ学習のゴールを共有することで、互いの評価のずれを防ぐことにもつながると考える。

本単元では単元開始前に検定の教師見本を作成し、その作成手順を基に単元の指導計画を立てる。そうすることで、単元のゴールとしての「検定」作りに必要な学習や支援、手立てが明らかになり、予想されるつまずきに対応した効果的な指導ができると考える。また、見本を作成する中で定まった評価規準を基に児童の検定を評価することで、より正確な評価につながると思われる。

##### 【B基準】

- ・500字以上
- ・事実と意見を区別した文末表現
- ・説明の工夫 一つ
- ・表現の工夫 一つ

また、見本は検定全体だけでなく、リード文、問題文、解説文それぞれを分けて数種類提示する。複数の見本を読み比べることで、文体の特徴や工夫の意図をつかみ、自分の伝えたいことに合った表現方法を選んだり参考にしたりできると考える。

5 指導計画（13時間扱い）

過程	時	学習活動	指導や支援の手立て	評価規準・評価方法
事前	0	○教師出題の日本文化に関するクイズを解く。	・児童にとって身近な日本文化の意外な発見を問題に取り上げ、日本文化についての興味と調べる意欲をもてるようにする。	
一		見通し 日本文化検定本作りの見通しをもつ。		
	1	○日本文化検定の教師見本を読む。 ○検定作りにどのような力や学習が必要か話し合う。  ○学習計画を立てる。	・教師見本は児童一人一人に配付し、手元でじっくり読めるようにする。 ・部分ごとに区切りながら教師が文章の内容を尋ね、問いと答えという形式や魅力についての解説であることに気付けるようにする。 ・作成した学習計画は教室内に掲示し、毎時間、位置付けを確認することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。	【主】① 観察 ・教師見本から学習の見通しをもち学習計画を立て、それに沿って進めていこうとしている。
課外		○日本文化についての本を読む。  ○自分が検定本に書くテーマを決める。	選材のための並行読書 ・一冊の中に複数のテーマが載っている本を選び、幅広く日本文化について知れるようにする。 ・マッピングを用いて、日本文化としての題材の幅を広げ、テーマが偏らないようにする。 ・学級の児童全員のテーマを把握し、各テーマに合う本を準備できるようにする。	【主】① 観察 ・意欲的に本を手にとって読書に取り組んでいる。
二		習得 共通教材『鳥獣戯画』を読むから、魅力を伝えるための筆者の工夫を読み取り、その種類と効果を理解する。		
課外		○自分のテーマについての本を読む。  ○テーマについて、魅力だと感じることを書き留める。 ○自分のテーマの伝えたい一番の魅力を決める。	自分のテーマについての本の並行読書 ・児童が選んだ一つのテーマについて詳しく書かれている本を選ぶ。 ・本を教室の一角にコーナーとして用意し、すぐ手に取って読めるようにする。 ・各自並行読書をしなが、魅力や問題にする話題を書き留められるように、ワークシートの書き方を全体で確認しておく。 ・伝えるのは日本文化としての魅力であることを確認し、本単元のねらいから逸れないようにする。	【主】① 観察・ワークシート ・継続的に読書に取り組んでいる。

	<p>2 ○教科書 p. 157 の挿絵を評価する。</p> <p>○「鳥獣戯画」に対する筆者の評価を読み取る。</p>	<p>自分のテーマについての本の並行読書</p> <p>・教科書本文を読む前に、児童に挿絵に対する評価を文章に書く活動を設けることで、筆者の着眼点や評価語彙の豊かさに気付けるようにする。</p>	
	<p>3 ○筆者の表現の工夫</p> <p>4 とその効果を読み取る。</p>	<p>・『鳥獣戯画』を読む」の教師の書き換え文と教科書本文を比較して読むことで、筆者の工夫とその効果がより理解できるようにする。</p> <p>・表現の工夫とその効果を教室内に掲示し、検定作りの際に活用できるようにする。</p>	<p>【思・判・表】③</p> <p>ワークシート・発表</p> <p>・筆者の表現の工夫に気付き、その効果を考えている。</p>
三	<p><b>活用</b> 『鳥獣戯画』を読む」で見つけた筆者の工夫を活用しながら、自分のテーマの検定を書く活動を通して、条件に応じて効果的に書く力を伸ばす。</p>		
	<p>5 ○検定本全体の構成を捉える。</p> <p>○問題にする話題の適切な選び方を知る。</p> <p>○問題にする話題を選ぶ。</p>	<p>自分のテーマについての本の並行読書</p> <p>・日本文化検定の教師見本を分析し、①リード文②問題文③選択肢④解説文という構成を理解できるようにする。</p> <p>・複数の教師見本（問題文と選択肢と答えのみ）を分析し、問題には知って驚き、魅力と繋がる話題が取り上げられていることに気付けるようにする。</p> <p>・問題としての話題の選び方の要点を3箇条にまとめ、それに合うよう確かめることを伝える。</p> <p>・必要に応じて追加の情報収集ができるように、手元に本を用意するよう声をかける。</p>	<p>【主】①</p> <p>観察</p> <p>・ワークシートや本を何度も読み返し、問題にする話題を選んでいく。</p>
	<p>6 ○解説文の構成を捉える。</p> <p>7 ○解説文の組み立て表の書き方を知る。</p> <p>○自分の検定本の解説文の組み立てを考える。</p>	<p>・教師見本の解説文を学級全体で分析し、初め（問題の答え）、中（魅力の詳しい説明）、終わり（まとめ）という構成と内容の組み立て方を理解できるようにする。</p> <p>・教師見本の解説文の組み立て表を提示することで、組み立て表の書き方を参考にできるようにする。</p> <p>・『鳥獣戯画』を読む」の説明の仕方の工夫についてまとめた掲示物に注目するよう声をかける。</p>	<p>【思・判・表】①</p> <p>ワークシート</p> <p>・テーマの魅力が伝わるように説明の</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>何を伝えるために、どのような説明の工夫をするかをワークシートに書くことで、工夫やその意図を認識できるようにする。</li> </ul>	仕方を工夫している。
8	<p>○リード文の組み立て方と表現の工夫を知る。</p> <p>○問題文の書き方を知る。</p> <p>○リード文と問題文を書く。</p>	<p>自分のテーマについての本の並行読書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師見本のリード文を分析し、①読み手を引き付ける書き出し②テーマの説明③問題につながるヒントという組み立てを理解できるようにする。</li> <li>複数の教師見本（リード文のみ）を分析し、リード文には様々な表現の工夫（問いかけや身近な話題など）があることに気づき、意図に応じて選べるようにする。</li> <li>様々な出題形式（○×問題、選択問題、穴埋め問題、並べ替え問題）を示すことで、設定したい問題の難易度や読み手に考えてほしい内容に応じて選べるようにする。</li> <li>検定本の教師見本を選択肢に着目して再度読むことで、答え以外の選択肢には、読み手を迷わせるような情報を選ぶ必要性に気づけるようにする。</li> <li>何のために、どのような表現の工夫を使ったのかをワークシートに書くことで、工夫とその意図を認識できるようにする。</li> </ul>	<p>【思・判・表】③</p> <p>ワークシート・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師見本の表現の工夫に気づき、その効果を考えている。</li> </ul> <p>【思・判・表】①</p> <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意図に応じてリード文と問題文の表現を工夫している。</li> </ul>
9 10	○解説文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が伝えたい魅力やそのための工夫を意識できるよう、第6・7時間目に作成した組み立て表を基に書くよう声をかける。</li> <li>教科書 pp. 168-169 の作例から、解説文の字数は500字以上になるよう伝える。</li> <li>『鳥獣戯画』を読むの表現の工夫についてまとめた掲示物に注目するよう促す。</li> </ul>	<p>【思・判・表】①</p> <p>ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマの魅力が伝わるように説明の仕方や表現を工夫して、解説文を書いている。</li> </ul>
11 (本時)	<p>○自分で文章を読み返し、推敲する。</p> <p>○友達と文章を読み合い、推敲する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み返す際の観点として、自分が伝えたいことやそのための工夫を探すことで、それらを再認識できるようにする。</li> <li>客観的に文章の内容が伝わるかを確かめるために、伝えたいことやそのための工夫についてペアの友達に言わずに読んでもら</li> </ul>	<p>【思・判・表】②</p> <p>ワークシート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明の仕方や表現の工夫に着目して、自分の伝えたいことが伝わるように文章を整えている。</li> </ul>

			い、本人の意図と友達の読み取りが一致するかを確認する。	
	12	○リード文、問題文、解説文を清書する。	・前時に推敲した文章を基に、清書するよう声をかける。	
四	<b>振り返り</b> 学習の過程を振り返り、他教科の学習や日常生活に学びを生かす態度を身に付ける。			
	13	○友達の作った検定を読み、コメントを書く。 ○自分の検定に取り組んだ友達からのコメントを読む。 ○単元全体の活動を振り返る。	・読み合う際の着眼点を事前に確認することで、検定の書き方についての評価や感想を書けるようにする。 ・友達からの評価を知ること、客観的に自分の検定の内容や書き方を振り返ることができるようにする。 ・解説が必要な場面をいくつか挙げることで、日常生活で本単元の学習を生かそうという意欲を高める。	<b>【主】①</b> <u>ワークシート・観察</u> ・これまでの学習を振り返り、自分にどのような力がついたかを考えられている。

## 6 本時の指導 (11/13)

### (1) 目標

説明の仕方や表現の工夫に着目して、自分の伝えたいことが伝わるように文章を整えることができる。

(思考力・判断力・表現力等B 書くこと (1) オ)

### (2) 展開

時配	主な学習活動と内容	○指導や支援の手立て ◇評価
3	1 前時を振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・前は解説文を書きました。 ・今日は文章を推敲します。	○教室に掲示してある学習計画に注目するよう声をかける。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           魅力が伝わるように、説明の仕方や表現の工夫に着目して文章を推敲しよう。         </div>		
10	2 自分で文章を読み返し、推敲する。 <b>推敲の観点</b> ①言葉の使い方や漢字の間違いはないか。 ②6年生が読んでわかる言葉や表現を使っているか。 ③文末表現で事実と意見が区別されているか。 ④一番伝えたいテーマの魅力は何か。 →一番伝えたい魅力を述べている部分を青で囲む。	○文章を事前にコピーしておき、コピーしたものに色分けして加除修正することで、推敲前後での変化に気付けるようにする。 ○推敲の観点はワークシートに記載し、手元で文章と照らし

<p>22</p>	<p>⑤説明の工夫をどの部分に使っているか。それはどのような工夫か。</p> <p>⑥表現の工夫をどの部分に使っているか。それはどのような工夫か。</p> <p>→工夫を取り入れている部分に青で下線を引く。</p> <p>※加除修正する場合は赤で行う。</p> <p>3 友達と文章を読み合い、推敲する。</p> <p><b>手順</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推敲前の文章のコピーをペアの友達に渡す。</li> <li>・ペアの友達の文章を読み、魅力だと思われる部分と工夫が感じられる部分に印をつける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい魅力…青で囲む</li> <li>・説明や表現の工夫…青の下線を引く</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手側が読み取った魅力、工夫とその効果を伝えながら、本人の意図と一致しているかを確認する。</li> <li>・よりよい文章にするための工夫を話し合う。</li> </ul> <p>〈一致した場合〉 本人の意図に合うよりよい工夫の仕方がないか話し合う。</p> <p>〈一致しなかった場合〉 本人の意図に合う工夫の仕方が他にないか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加除修正がある場合は赤で書き込む。</li> </ul> <p>※テーマの魅力について</p> <p><b>ペアの友達</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番伝えたい剣道の魅力は、「相手への礼儀を重んじる心」で合っている？</li> </ul> <p><b>書いた本人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合っているよ。その「礼儀」を伝えたくて、所作とルールを取り上げて説明したんだ。</li> </ul> <p>※説明の仕方の工夫について</p> <p><b>ペアの友達</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「同じ武道の相撲や柔道では」の部分で、「他のものと比べる」を使ったで合っている？</li> </ul>	<p>合わせながら一つ一つ確認できるようにする。</p> <p>○活動の手順がわかるよう、教師が見本となりペアで読み合う様子を事前に動画に撮り、流しながら説明する。</p> <p>○推敲前の文章を友達の分も別に事前にコピーしておき、そこに書き込むよう伝える。</p> <p>○工夫の種類や効果を思い出し、推敲の際に見付けやすくなるよう、「『鳥獣戯画』を読む」で読み取った説明や表現の工夫をまとめた掲示物に注目するよう声をかける。</p> <p>○書き手本人の思いを尊重できるように、傾聴した上で質問・提案をするという姿勢を意識するよう事前に伝える。</p> <p>◇思・判・表</p> <p>説明の仕方や表現の工夫に着目して、自分の伝えたいことが伝わるように文章を整えている。</p> <p>(ワークシート・観察)</p>
-----------	--	---

	<p><b>書いた本人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そう！相撲や柔道は基本的にどこからでも攻められるけれど、剣道では攻められる場所が四か所に決まっているから、正々堂々と戦うことが大切にされていると伝えたくて、他の武道と比べてみたんだ。</li> </ul> <p>※表現の仕方の工夫について</p> <p><b>ペアの友達</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の工夫は「あなたは～ありますか。」の部分かな？ 「剣道に興味をもってもらえるようにリード文に問いかけを入れた」で合っている？</li> </ul> <p><b>書いた本人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そう！剣道は体育で学習する競技ではないから、みんなにとってあまり身近ではないと思ったんだ。まずはどんな競技か思い出してもらえるように、問いかけを入れてみたよ。</li> <li>・他にも「礼に始まり、礼に終わる。」を書き出しの工夫として入れたんだ。</li> </ul> <p><b>ペアの友達</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この部分に入れたのか。気が付かなかったよ。書き出しだから、「中」の先頭に移動させたらどうかな？</li> </ul> <p><b>書いた本人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かにそうだね。「中」の最初に入れて、その後に続く文を考えてみる！</li> </ul>	
10	<p>4 本時の学習を振り返り、次時の内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[振り返りの観点]</p> <p>①推敲の前と後でどの部分をどのように変えたか。また、それはなぜか。</p> <p>②なぜ自分一人だけでなく、友達と読み合って推敲するのか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き出しを「礼に始まり、礼に終わる」という言葉にしました。読む人の印象に残って、続きが読みたくなると思ったからです。</li> <li>・自分一人で読み返した時は表現の工夫が伝わると感じていたけれど、友達には伝わりませんでした。他の人が読んで伝わるように表現をよくしていけることが、友達と読み合って推敲するよさだと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推敲する前と推敲した後の文章を見比べるよう声をかけることで、推敲を経ての変化を感じられるようにする。</li> <li>○振り返りの観点を設定することで、本時の学習の意義や身に付いた力などを感じられるようにする。</li> <li>○学習計画に注目するよう声をかけ、次時では本時の推敲を生かして、文章を清書することを確認する。</li> </ul>